

桑名文化協

平成31年3月15日

第 45 号

桑名市文化協会
桑名市中央町2丁目37
TEL 24-1361
<http://bunkyo-kuwana.jp>

新春六華苑祭に 参加して

美術部門 坂井 行雄

(全日写連桑名支部)

新春六華苑祭が一月の穏やかな日に二日間番蔵棟、洋館一階ホール、和館の間、離れ屋、芝生広場でそれぞれの催しが行われました。

私が所属する美術部門は番蔵棟で絵画、写真、陶芸、工芸、書道、彫刻が43点展示され桑名市はもとより県内外から訪れた多くの方に鑑賞していただきました。

鑑賞者の中には作品について熱心に質問されたり、一点一点じっくり時間をかけて鑑賞され作品の前で仲間同士活発な談義が起ころなど関心の高さを感じました。また、NHK大河ドラマ「いだてん」の影響か六華苑の建物に関心があり番蔵棟等を見学に来たと言われた東京からの訪問者も現れました。一方で、番蔵棟展示スペースの一部は出展者の辞退が発生したのか出展希望者が不足したのか定か

ではありませんが、展示物がない空白区間があり、出展者の一人として残念に思いました。

美術部門は九部門あり多くの団体と個人の会員で構成されており、すべての会員が番蔵棟の限られた展示場所にそれぞれ発表することは不可能です。したがって、輪番制で出展希望者を募っている認識しています。会員は誰しも制作した自分の作品を発表する機会、場所を望んでいると思われま

す。今後、出展場所の空白ができないように輪番制会員の奮起並びに出展担当者の調整により多くの作品が番蔵棟に展示されることを望みます。



新春六華苑祭

芸能I部門 瀬尾 良子

(箏曲ぐるーぶ束)

冷たく澄んだ風を感じる一月。今年も十九、二十日の両日第十五回新春六華苑祭が催されました。残念ながら二日目は雨のため芝生広場でのキッズダンスが中止になりましたが、美術作品展示や離れ屋でのお茶席もあり和室や洋間では素晴らしい演奏があり来苑くださった皆様は満足していただけたのではないかと思います。

さて、思い起こせば新春六華苑祭の第一回目のこと。私は役員さんに初心者や子供達を出してやりたいと相談しましたところ、即答で「いいね。大歓迎」と言われました。初心者や子どもたちは文化祭のような大きな舞台に立つまでには時間がかかります。そこでこの雰囲気の良い大広間でご披露できたらどんなに励みになることだろうと考え企画しました。たった二、三分の演奏もドキドキでしたが温かい拍手をたくさんいただき演者達は満面の笑みを浮かべていました。その後は私の予想をはるかに超える程の上達ぶりでした。六華苑の体験がプラスに働いたのは言うまでもありません。客席とステージが同じ高さのフロア



でお互いの息使いがわかるまことにこの『ライブ感』はありがたいです。

最後になりましたが、貴重な歴史建造物を公開してくださり、またこのような企画を立ち上げ運営して下さっている役員の皆様のご苦労に心より感謝しつつ私どももこの新春六華苑祭を少しでも盛り上げられるよう努めてまいりたいと思います。そして欲張りですが毎年この時期大雪にはなりませんようにと天に祈るばかりです。

市民芸術文化祭 を終えて

趣味教養部門 小池 美紀
(パッチワーククラブちくちく)

桑名市文化協会に加入して、十数年：文化祭への参加も六華苑の番蔵棟の展示からはじまりました。毎週木曜日に集い、和気あいあいと楽しんでいる教室ですが何か目標があると良いと思います。文化祭に参加させて頂いています。体験講習も毎回行なうなか毎年楽しみにされる方、文化祭を見てパッチワークに興味を持たれた教室に入られた方など、沢山の方々とお逢いでき、



あつという間の十数年でした。文化祭が終わると、次のテーマは何にするか考え、翌年に向けて日々楽しみながら、ちくちく縫っています。

体験講習も毎年違うものを考え初心者の方でも出来るものから少し難しいもの、手作りの良さ、楽しさを感じて頂ける工夫をしています。教室でも同じものを作る事は避け、みんなが一点もの、自分だけのものを作る様に心掛けて、作品づくりをしています。

これからも少しでも長く続けられる様、みんなで楽しく努力していきたいと思えます。

教室でも体験を行っております。お気軽に、ちくちくしてみませんか。

桑名市民芸術 文化祭茶会

茶華香道部門 丹羽 宗俊
(茶道裏千家)

市民芸術文化祭茶会は、表千家流・遠州流茶道の組と、煎茶松風流・茶道裏千家の組の二組で、一年交替で担当させて頂いています。香道志野流は、五年に一回の開催です。

第27回市民芸術文化祭茶会は、

十一月三日(土・祝)六華苑一の間にて煎茶松風流緑風会、離れ屋にて茶道裏千家山田宗真・丹羽宗俊社中で、席を持たせていただきました。

天候にも恵まれ、一席目より各席二十数名の入席で、約二百五十名の方々にお茶を楽しんでいただきました。席中が混み合い、入席できなくてお菓子をお持ち帰りいただくことになったお客様には大変申し訳なく、この紙面にて深くお詫び申し上げます。

離れ屋の席では、宗旦狐をテーマにした茶会で、受付・待合・本席にて、九匹の狐がお客様をおもてなし致しました。席中では、お客様に狐の数を数えながらお茶を召し上がっていただき趣向でした。「お越しいただきましたお客様、何匹数えて下さいましたか?」

- ここで種明かしを致しましょう。
- ① 受付 ② 待合軸 ③ 席入りの時の札受取り盆上 ④ 香合「白僧主」
 - ⑤ 席主の面 ⑥ ⑦ ⑧ 三つ狐蓋置
 - ⑨ 仕舞茶盃の九匹でした。

宗旦狐の伝説は諸説伝わっております。



▲香合「白僧主」



りますが、一例をご紹介します。

昔、京都相国寺の境内に年老いた狐が住んでおり、夜寒の頃、千宗旦の姿に化けて近辺の茶人を訪れ茶を喫し、菓子を食べて帰ることがしばしばあり、いつしか誰もがそれを知りつつ風流を楽しむようになり、宗旦狐と呼んだと言います。宗旦が当時著名であったことを物語っています。

お茶席では、移りゆく季節を感じ、非日常の世界で心豊かなひとときをお過ごし下さい。

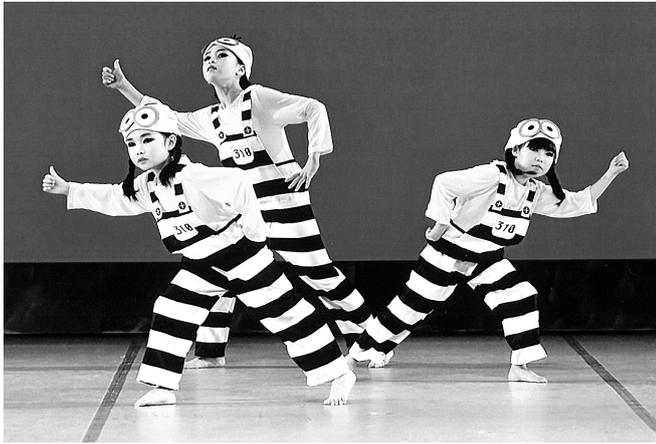
文化協会では、年八回国の重要文化財の六華苑で月釜を第三日曜日に、四流派交替でかけさせていただきます。

市民の皆様のお越しをお待ちしております。

平成最後の文化祭

芸能Ⅲ部門 武者真理子
(武者真理子モダンバレエキッズ)

今回平成三十年十一月二十五日NTNシティホール(桑名市民会館)で文化祭が開かれました。モダンバレエキッズは創立二十五周年を迎えますが文化協会会員になり二十年を超えました。そのお陰で毎年発表の場がありレッスンの成果を華やかな衣裳をまとい立派なステージで披露出来ました。



それと芸能Ⅲ部門は特別・特殊でクラシックバレエ、ジャズダンス、フラメンコ、モダンバレエと様々なダンスが一挙に観る事が出来る文化祭。お客様も飽きる事なく楽しめるステージになっていて事は大きく誇れる点と自負しています。最初は芸能Ⅰ部門と同じ部門でしたが文化協会の御理解で独立し、Ⅲ部門とし、一日贅沢に時間が持て自立公演なみの発表が出来、心から感謝しています。

モダンバレエの活動は全国舞踊コンクール、神戸コンクール、横浜コンクール、全国児童舞踊東海ブロック公演と多くのイベントに参加してきました。全国舞踊コンクールは歴史が一番古く、レベルの高いコンクールと称されて、二回の入選経験をさせて頂きました。ただ東京、神戸、横浜へと遠征は経済的にも負担が多く、全員とはむずかしい点がありました。

桑名市文化協会主催の文化祭は、委託金などの援助があり、毎年参加出来、生徒達も理解出来、多くの楽しい経験を重ね、感性豊かな子供に成長してきたと心から思えます。本当に楽しい文化祭でした。ありがとうございました。



新春懇親会

芸能Ⅰ部門 杉野さおり
(みさき会桑名愛琴会)

今年も新春六華苑祭初日の夜、桑名シティホテルで新春懇親会が開催されました。今年度桑名市文化功労者に表彰された桑名弦楽合奏団の皆様によるオープニング演奏に始まり、会場内に清々しい新春の風が吹き抜けました。

私たち愛琴会は、歓談中のアトラクションとして大正琴を演奏させて頂いていただきました。今回で三回目の演奏です。初めての年は、緊



張から食事がほとんど喉を通りませんでした。今年心は余裕ができて、終始楽しませていただきました。演奏ステージからご参加の皆様笑顔がたくさん見られ、和やかな時間の流れを感じました。

普段は交流の機会が少ない他分野の会員の皆様と親睦を深め、そこから新たなアイデアや展望が生まれます。それはさらに、桑名市の文化の発展に繋がっていくのだと思います。

今後多くの会員の皆様のご参加で、盛大に懇親会が開催されていくことを期待します。

桑名市文化功労者 表彰を受けて

桑名弦楽合奏団

音楽部門 鷺野高明
(桑名弦楽合奏団)

このたび、桑名弦楽合奏団は桑名市文化功労団体として表彰され、私は団を代表して桑名市役所で行われた表彰式に出席しました。団が表彰状をいただくのは2006年度「志鳥音楽賞」以来のことで、行政からは初めてのことです。

当団は1990年の創立以来、植村勉氏の指導の下で、一般市民に身近な場所で生の音楽を楽しんでいただく活動を続けてきました。その活動の代表である「巡回コンサート」を紹介します。



▲平成30年度 桑名市文化協会 新春懇親会
オープニングでの演奏

団の創立当時、桑名市内には少人数での演奏に適した施設がなく、当団の活動を公に知っていたために各地の公民館を会場としたコンサートをを行い、市内を一巡しようとした計画しました。開始当初、関係者や市民の多くはこの活動を理解してくれませんでした。しかし、年月の経過とともに団を取り巻く環境は変化し、現在では当団の看板行事としてすっかり定着し、団員にも市民にも好評です。情報化社会の現代では音楽はいつでも手軽に楽しむことができ、お客様の耳も肥えています。それでもお客様に生演奏を楽しんでもらいたい、という団の想いは変わりませんし、実際、音楽を通じた人と人とのふれあいを求めて、コンサートのどの会場へも多くのお客様が足を運んでくださいます。ありがたいことです。

私は、音楽は演奏者だけでなく聴衆も一体となって成り立つものと考えています。ですので、今回の表彰の対象は私ども桑名弦楽合奏団だけでなく、これまでの活動を見守ってくださったお客様や関係者の皆様も含まれると受け止めています。

これからも皆様の期待に応えられるような活動を企画・展開していきますので、引き続き桑名弦楽合奏団を応援いただきますよう、よろしく願います。

谷古宗敬さん

茶華香道部門 谷古宗正
(遠州流茶道)

電話のベルが鳴ったのは何時だったでしょうか、梅雨が明けたころの穏やかな日でありました。お話は、父、谷古宗敬を桑名市文化功労者の名簿へ登録したいとの打診でした。当初、父は渋っていましたが、長年の茶華香道部門への貢献を認めていただき、是非にということと、名簿への登録を了承いたしました。

父は桑名市文化協会はもとより、その前身である桑名市文化連盟時代にも茶華香道部門の理事を務め、また、(二財)桑名市文化・スポーツ振興公社の評議員、公益財団法人くわしん福祉文化協力基金の評議員も務めさせていただくなど、長年にわたり桑名市の茶華香道部門の発展に貢献させていただいております。

最初の電話から二ヶ月と経たないうちに、父が他界し、悲しみに浸る間もなく日々の生活を続けていたころ、また電話のベルが鳴りました。父が今年の文化功労者に決定した、との知らせでした。既に亡くなっているのと、一度は辞退申し上げましたが、皆様が生前の父の功績を認めてくれたんだなと思ひ直し、お受けすることに



▲平成25年度新春六華苑祭茶会にて

致し、父の名代として桑名市役所で市長より表彰を受けました。

文化功労者の表彰式が翌日の中日新聞に掲載され、また広報くわな十二月号にも掲載されたことで、多くの方からお祝いと同時に、もう一年早かったら、存命中であつたなら、とのお言葉をいただきました。今まで茶華香道部門の皆様が父と活動を共にし、頼りにして下さっていたことを改めて実感し、大変ありがたく思いました。存命であれば、父も皆様に感謝をしていたことと思います。この度の表彰、本当にありがとうございます。

二〇一九年度月釜・華道展日程表

開催時間：月釜 午前10時～午後3時30分
 華道展 土曜日 午後1時～午後5時 日曜日 午前10時～午後4時
 開催場所：六華苑
 呈茶券：前売券900円（六華苑入苑料込、茶道各流派師範宅・六華苑で販売）
 当日券600円（六華苑入苑料460円別）

※4月13日（土）は「県民の日」を記念して六華苑の入苑は無料です。
 呈茶券は、前売・当日共に600円。
 ※お問い合わせ：桑名市文化協会事務局（桑名市観光文化課内）TEL0594-24-1361

開催日	茶道担当流派	華道担当流派
2019年 4月13日（土）	表千家流	小原流
4月14日（日）	茶道裏千家	小原流
5月18日（土）	茶道裏千家	MOA山月光輪花
5月19日（日）	茶道裏千家	MOA山月光輪花
6月15日（土）	遠州流	草月流
6月16日（日）	遠州流	草月流
9月14日（土）	煎茶松風流	石田流
9月15日（日）	煎茶松風流	石田流
10月20日（日）	表千家流	休会
2020年 1月19日（日）	遠州流	休会
2月15日（土）	表千家流	華道家元池坊
2月16日（日）	表千家流	華道家元池坊
3月14日（土）	茶道裏千家	竹真流
3月15日（日）	茶道裏千家	竹真流

桑名市文化協会 育成補助金募集のお知らせ

桑名市文化協会では、桑名市の芸術文化振興のため、文化協会会員が企画して行う事業に対して、補助金を交付します。つきましては2019年度の育成補助金募集案内をいたします。

○補助対象団体等

文化協会の個人及び団体。ただし、2019（平成31）年4月1日をもって、桑名市文化協会に在籍1年以上で、2017（平成29）年度・2018（平成30）年度に補助を受けていない会員。

○補助金の額

事業企画実施に要する交付対象経費の80%以内の額で30万円を限度とする。

○応募の方法

文化協会事務局から送付された申請書に記入し、同事務局へ申請する。

○応募受付期間

2019年3月1日（金）～4月5日（金）
 2019年4月1日～2020年3月31日までの実施事業に限る

○申請の制限

2017（平成29）年度・2018（平成30）年度に補助金助成を受けた団体・会員は交付申請できない。

第27回 定期総会のご案内

〈日時〉 2019年5月12日（日）
 午前10時から
 〈受付は午前9時30分から）
 〈会場〉 桑名市中央公民館 大研修室

*各部門から代議員の選出をしていただきます。

2018（平成30）年度 新入会員の紹介

（3月1日現在までに入会の会員）
 個人会員 伊藤 孝生（美術）
 個人会員 西村 健（美術）

新入会員を随時募集しています！

文化活動を行っている団体さん、個人の方、文化事業に興味のある方、一緒に桑名市の文化芸術活動を盛り上げていきませんか？

●お問い合わせ

桑名市文化協会事務局
 （桑名市観光文化課内）
 TEL0594-24-1361



文協文芸

詩

〈現代詩やまぶき〉

来客 岡本 妙子

ひよつとして
 あなたは誰かの化身ですか
 季節はずれに訪れた
 ヒスイ色した一匹の糸トンボ

毎朝開けるカーテンのむこうで
 網戸をそつとつかんで
 私をじつと見つめる

次の朝、うわあ、まだいてくれた
 その次の朝も
 その次の朝も

「おはよう、今日もいてくれたのね」
 バジルの葉を濡らし
 水盤に水を張り
 これくらいしか出来なくて
 ごめんなさい

四日目の朝電話が鳴った
 そしてあなたはいなくなつた
 友は言った
 きれいなトンボになつて
 様子を見に来てくれたのよ
 そんな気がした
 四日間の来客でした

土に抱かれて 堀川 孝子

大地のほんの一部を借りた
 乾いた地面を掘り起こすたびに跳ね返され

何の因果でこんな苦しいことをして
 いるのだろう と自問しながら
 鍬を振り上げては投げだし
 畦道に倒れ込んだ

両親は一町余りの田畑を
 牛の力を借りながら二毛作に
 養蚕と百姓仕事に明け暮れていた
 農繁期には稲運びや桑摘み
 手伝うことはあつても教えられるこ
 とはなかった

——百姓にはお嫁にやるな
 二人の間で交わされていた想い
 見様見真似で始めた土なぶり
 私の中に流れていたDNA

野菜を洗えばアメリカ産に中国産
 季節を知らず 土を知らず
 冷えた庫内で花の咲くことはない

畑では芽生えた大根が
 双葉を広げて並んでいる
 葉裏に産み付けられた卵をつぶし
 トマトの顔色を見ながら話しかける
 と

なつかしい匂いがして息をしている
 ことを忘れていた

焼け付く陽射し 打ち付ける雨
 全身で受け止め

折れたところから再び伸びてくる
 緑々した膨らんだお腹は今にもはじ
 けそう

久しく土に触れることのなかった私
 の体は乾いていた
 土に抱かれて眠る
 もそもぞと吹き返してくる命
 明日も晴れるといいね



栄西を訪ねて 安田 治三

南座を下つて東に入り
 辻を二つ程曲がると建仁寺が見える

「大いなるかな、心や」
 果たして明庵栄西は私を迎えてくれ
 るのか

門の構えから喫茶去が伺える
 どうやら気に入られたらしい

どこか違った風格と、一種の寂寞を
 感じたという水上勉

なるほど有名寺としての
 威圧感がなくて心地よい

栄西は吉備津に始まり、
 生まれてこの方荒廃した世を憂い、
 救いを求めて呻吟している人々を
 目の当たりにしながら

自身の修行の足りなさを、
 力の無さを
 益々覚えて比叡山を下り

先ずは宋に渡らなければ、渡る事が
 できればと二度の渡宋を経て更に
 天台と真言を極め、禪をすえて
 世を救う事こそ使命であると確信し
 た

經典に捉われず自力を以て
 釈迦の精神に到達しようとした栄西

天台、真言の折衷する道と
 禪を取り入れた姿勢は
 鎌倉武士にも受け入れられていった

終には上皇や公家の庇護のもとに
 道は民ごころとなつていった

栄西は末法の世の迷える人々を
 きつと救えたに違いない

八百年の時を経て今なお続く
 「四頭の茶会」は何をか言わん

くわな川柳会

木原 広志

夜学の仲間達

昭和二十年三月、国民学校高等科を終えると、叔父の紹介で名鉄へ入社。駅員の見習いくらいに思っていたら、保線区の大工見習いであった。

指導する兄弟子は、軍隊帰りの元工兵。

「こんなことがわからんか。」とよくなられた。

保線区の大工は三人。主に鉄橋の枕木の取替えだが、依頼があれば駅長室も修繕する、従っていろいろ勉強が出来た。

一方、兄弟子の上の班長は温厚で茶人でもあった。しばしば私に「お屋敷へ招かれ、抹茶をよばれ、打ち合わせが出来るのは、大工と庭師だけだ、飲み方ぐらい覚えておけ。」の言に従い、昭和二十六年、茶道裏千家へ入門した。

以来五十人ほどに、許状の取次ぎをしたが、今も賀寿には記念品が届く。

社中に男の弟子は少なく大切に

してもらったが、大工としてもい
ろんな茶席を見ておおいに参考
になった。

「若い内に手に職をつけよ。」と
の叔父の配慮がうれしかった。

保線区へ出入りする、さまざま
な若者の中に、工業高校の定時制
に学ぶ人がいて、一緒に通学する
ことになった。

四年間はながい。私たちの場合
六十六人が入学、四年後、卒業で
きたのは十六人であった。

後年資格を取るため、専門学校
へ二年通ったが苦痛ではなかつ
た。

名鉄に定年までつとめ、その後
三か所の会社を移ったが、全ての
会社が、夜間部の六年間を評価し
てくれた。

夜学の絆は強い。今も年に数回
会話が会話は若い頃のままであ
る。



ひびき

川柳へ手を染めて六十年になる
が、いい先輩に恵まれながら上達
はしていない。俳句と似た過去を
もちながらまだ一段低く見られ
ている。そんな中で毎月の句会に
は百人近い仲間が集まる。趣味の
絵を添えて、行きつけの店へ掲出
している、ツワモノもいるが、「俳
句とちがいが、わかるから面白い。」
と聞く。

評論家 復本一郎の名言に、「川
柳はうなずかせせる文芸である」が
あるが、口語体の川柳は耳で味わ
うと言われ、読んだ人の印象に残
る句が望まれる。何年やっても満
足する句は出来ない。僅か十七音
字の言い廻しの中へ要求される。
印象に残る先輩の句には、その巧
さに「いらだたしさ」を感じる。

思うに先輩たちは、若い時から
さまざまな本を読み、それが作句
の時の語彙を豊富にしている。若
い頃から、いい本を沢山読む、そ
れが今作句に生きている。若い時
に、読んだいい言葉が作句の時よ
みがえる。例えば、車座の中で味
のある言葉に接する時、作句のヒ
ントになる。矢張り、いい話をす
る老人の話には耳をかたむけたい。
例外はのぞき若い時、いい本を沢



山読んでいる老人は話が出来る。

師伊志田孝三郎は晩年、「川柳家
は文章が書けなくてはいけない、
おしゃべりもできなくてはいいけな
い、句のうまいのは当然です。」と
説いた。余談だが、孝三郎師を越
える人は出来出ていない。いわゆ
る、全国区である故・孝三郎を誇
りにしている。

〈金雀枝短歌社〉

●会員 近詠

一株にたった一本顔を出すまゆは
け万年青太き茎なり

赤堀眞美子

松虫の鳴き声小さくひびきいて小
雨降る夜のソリストならむ

池田三津子

ひつじ田に点在している藁塚の思
いおもいに傾きており

石川 房子

近頃は背の屈みゆく思ひして影に
映して確かむ等身

伊藤さくえ

ばあちゃんの筍御飯が一番すき笑
顔を思い人参ささがく

伊藤 紗代

シルバーカーを押して歩ける母と
並み公園めぐる秋空の下

伊藤美咲子

手のひらをぱんと鳴らせば黒猫の
つとふり向きぬあたたかき午後

岩花キミ代

バラ色の口紅付けて出かけた娘
の助言無視した色で

上田 順子

十キロより重くなりたる子への荷
物畑に採りたる里いも、伊勢いも

海老原秀世

青鷺と鴨と亀らはそれぞれの日課
をこなし夢の途のごと

大平 千歳

秋日和鈴成りの柿熟したり大風に
耐へしのちを艶めく

岡本 節子

急行をやり過ごし乗る各駅の電車
初冬の田園風景

加藤よしみ

寒暖の関りもなく季来れば必ず開
くその紅き花

川村久美子

存へて幾つかあらむ「ありがたう」
法話聞きつつ胸に手を当つ

黒田美代子

発駅と変わりし列車の掃除する
チームワークの無駄なき動き

後藤 明美

玉ねぎを植ゑむと耕す吾の影長く
伸ばして夕日傾く

近藤 光子

吉報でありしよ ようやくようや
くにつぎ来る春を明るく待てり

斎田 眞希

行く先はシークレットの子の誘い
着けば広がるコスモス畑

佐竹貴代子

菜種油の匂いなつかし芋天をつま
み食いた母の揚げたて

四方千枝子

畳あがる床に敷かれし新聞紙昭和
の記事に刻をすごせり

鈴木美恵子

案じごとやうやく解決今日のこの
穏しき秋晴れまるごとわたし

三田香代子

鯛雲のあひを光りて一機ゆく墓参
を終へてあふげる空に

高橋 典子

数式と正七角形の図など描く算額
見上ぐ さて、誰ぞ解く

高橋フクミ

吾子の足氷のように冷たきを我が
身で温めし父がいた夜

多儀美佐子

楸の柄の元を押さへて円を描くば
あばと孫は声挙げながら

田中 流石

野仏様に花一輪をさし上げる氷雨
が今にも降りさうな空

立松 鈴子

澄みわたる満月たたふる声かとも
草生に虫のたかだかと鳴く

千種てい子

消されたる月の兔を幼には作り話
をしてみる夕べ

中村 里子

渋皮を剥く吾それを食ぶる夫中津
川にて買い来たる栗

南部 信子

台風の接近を聞き組みはじむ稲藁
まだまだ乾かぬままに

西塚 郁代

野菜種肥料を買いて晴を待つ秋を
たのしむ俄百姓

西野美津恵

盧舎那仏拜して巡る内陣に鑑真和
上の遺徳を偲ぶ

丹羽 孝之

違えずに国旗掲げる一軒あり律義
な主は元鍛冶職人

水谷 郁子

ほどの良い嵩にてありし母と吾の
夫婦茶碗の志野焼ぬくし

水谷貴美子

指編みの黄緑色のマフラーを畑仕
事にと小二がくれる

三林 牧子

ただの鉄に美と魂を注ぎ込み神と
も武器とも成りて刀剣

宮原 恒子



二楓・山城顕彰短歌

●小・中学生作品

- サッカーでシュートを打ったあの
しゅん間ネットがゆれて心もゆれた
小六 平野 馨
- カブトムシ急に飛んで来るその姿ま
るで自然のラグビー選手
小六 服部 颯生
- おきなさいひびく母のおにの声私は
布とんの中のカタツムリ
小六 藤島 早希
- 一年生入学式でつないだ手小さなぬ
くもり大きな笑顔
小六 安藤 璃咲
- 風鈴がチリンチリンと鳴っている夏
を知らせるチャイムのようにだ
小六 中村 有沙
- 台風が日本列島おびやかす今年もき
たぞ目をみひらいて
小六 片山剛太郎
- 短冊にねがいをこめて夢をかく今年
はひとつかなうといいな
小六 佐藤真理菜
- 東大寺迷子になって大仏がなんだか
こっちを見てるみたいだ
小六 横山 裕士
- 星空に少しかけたお月様今食べてい
るせんべいのよう
小五 鶴飼 心葉

海沿いの旅館から見る夜の海吸いこ
まれそう ちよつとこわいな
小六 太平さくら

短歌作りこまるみんなは考えるまね
しようかな百人一首
小六 大和 はな

春に来た天使のインコはんこう期羽
かわる夏いたずらざかり
小六 高木 咲衣

お手伝いできることならまかしてね
たよりになるかわからないけど
小六 三林 翔瑠

朝にふく夏の終わりのぬるい風ふわ
りふわりとねむりをさそう
小六 川淵 百花

夏休み息つぎのコツつかんだらスイ
スイ泳げ楽しいプール
小六 松岡 梨那

夏の夜習い事が終わったら空を眺め
て星座を探す
小六 鈴木 颯斗

うれしさは努力した事ほめられて少
し勇気がわいて来た時
小六 大平菜々恵

たのしみは音色広がる楽器の音たく
さんの音色結びつく時
小六 水谷 爽桜



父の日に素直になれず悩んでる「お
つかれさま」と言うだけなのに
中二 川原 千佳

ボロボロで茶色に変わったダンス
シューズ今は私の体の一部
中二 水谷 慶

夏がきたとなりの家のばあちゃんが
くれた大きなまあるいスイカ
中二 平野 真琴

もうダメだ思った時のもう一步思い
出させるスパイクの傷
中二 小林 瑞貴

カアカアと今日も来たぞ黒い敵祖父
と守るぞ畑の宝石
中二 三林 悠

無情にもピッチに響く笛の音地面に
倒れ空を見上げる
中二 坂田 龍星

「起きなさい」部活の朝の日常はめ
ざましよりも母の一喝
中二 川面 拓己

あと一点小さな球に想いのせ必死に
ラケット振り抜く私
中二 伊藤 千恵

筆箱の中から出せぬ思いでのシャ
ペン一つお守りとなる
中二 水谷 剛士

グループをまとめる仕事の難しさ自
分を出してこの難しさ
中二 早田 健剛

見慣れてるはずの景色の通学路ふと
気づいたら広がる紫陽花
中二 田中 莉乃

数学の問題用紙とにらめっこチャ
イムが鳴るまであきらめないぞ
中二 岡本 亜実

ふりむくと水平線までのびてゆく夕
日輝くあかくちばいろ
中二 安藤 圭吾

バイバイと手を振りあつたその後は
一人で歩く長い坂道
中二 石田有結里

うれしみとさびしさふたついまじ
るもう子どもにはもどれないことに
中二 和田 悠里

朝顔の種を数える妹に姿かさねる夏
の思い出
中二 服部 彩来

知らぬ間に落書きされた筆箱はいや
なあいつと結んだ友情
中二 鈴木 柊也

朝ご飯家族の好みばらばらでバイキ
ングかなうちの食卓
中二 伊藤 瑠美

夕方の風ふく窓辺で友達と息をあわ
せて音を奏でる
中二 廣瀬ななみ



桑名地名あれこれ②

社会文化部門
(個人会員)

大河内 浩

春日神社と上る下る

京都の市街では場所を示すのに道路(通り)の名前を軸にとつて西入ル東入ルとか上ル下ルという表現が使われます。市街の最北端に置かれた御所を上として、ここへ向かう方向が上がるです。

桑名でも似たような感覚で、石取祭で有名な春日神社が市街精華の徴憑大塚として、江戸時代から尊奉を集めてきました。南北参道にあたる職人町や北魚町では神社に向かう方向が上りであり、近隣の町・宮通・南魚町でも町内で神社に近い方が上組と呼ばれました。宮通や南魚町では、早く明治時代には北・南の呼称に変わりましたが、この呼び方が今も残るのが上本町です。



石取祭車に用いられる全ての装飾染織品の中で最高級の逸品だと絶賛される上本町祭車の天幕



秋の例大祭でも上本町からは他町に比べ圧倒的多数の童子が輩出されて奏楽を奉納しています

江戸時代(一八〇四ごろ)に著された久波奈名所圖會にも「本町上中下三組に別れたり」とか幕末期の城下市街絵図にも上本町・中本町・下本町と書かれています。

江戸時代、寺社地は通常町民市街地とは別色で描かれています。が、「本町」の名が示すように春日神社は本町の町域に含まれます。中でも上本町は一番近く「春日の膝元」と呼ばれ石取祭典市街第一組、秋の例大祭市街北市場第一でも、共に筆頭町内に序列されています。古来金融関係に携わる人が多く、その方面で明綴錦図様の天幕地を仕入れたのではと伝えられます。

ご賛助いただいております
特別会員の皆様

3月1日現在
(五十七名)

- 医療法人 桑名病院様
- 医療法人尚徳会 ヨナハ総合病院様
- 医療法人普照会 もりえい病院様
- 医療法人誠会 山崎病院様
- お菓子処「和」様
- カネソウ株式会社様
- 株式会社朝日鑄工所様
- 株式会社 歌行燈様
- 株式会社 グランビル様
- 株式会社 山水園様
- 株式会社 水谷精機工作所様
- 株式会社 レイ・ステージ桑名様
- 木村洋子様
- 桑名シテイホテル様
- 桑名三重信用金庫様
- 在日本大韓民国三重県桑名支部様
- 中央不動産株式会社様
- 辻内鑄物鉄工株式会社様
- 兎月堂様
- 花新江場中店様
- 花乃舎様
- 光精工株式会社様
- ヒルカワ金属株式会社様
- 三重精機株式会社様
- 森田フードシステム株式会社様
- 有限会社 茶茂様

日頃の協力に対しまして
深くお礼申し上げます。

編集後記

「文芸」特集にあやかり古今和歌集にある次の歌を紹介させていただきます。
桜花散りかひくもれ老いらくの
来むといふなる道まがふがに
(桜花よ、散り乱れてあたりを曇らせておくれ。老いが来るといふ道を紛れてしまおうように。)

ある貴族の四十歳のお祝いの席である在原業平が詠んだ歌です。お祝いの席にふさわしくない「散る」「曇る」という言葉を並べたあと、三句以下でわざわざに祝意を詠み上げ、座一同から拍手喝采をあげた、いかにも業平らしい意表をつく歌で面白いと思います。

私ごとですがこの三月に迎える「還暦」をどなたかからこのような歌で祝いしてもらえたら・・・とあらぬことを妄想しながら編集後記とさせていただきます。

趣味教養部門 加藤 誠

- 広報担当副会長 丹羽 宗俊
- 広報担当副会長 安田 治三
- 委員 文学部門 佐竹貴代子
- 美術部門 佐久間 悟
- 音楽部門 藤井 弘
- 芸能I部門 村瀬 昌子
- 芸能II部門 家田 厚岳
- 芸能III部門 伊藤 好子
- 演劇部門 相原 千景
- 茶華香道部門 水谷 信子
- 社会文化部門 大河内 浩
- 趣味教養部門 加藤 誠